

JASO発 暮らしつづける街へ (Part 2) <第 29 回>

三木哲氏を偲んで

耐震総合安全機構 (JASO)

マンション改修の先駆者として業界を導いてきた三木哲氏が、2023年6月17日に享年80歳で永眠されました。1977年に鶴川6丁目団地にて首都圏初の大規模修繕工事を実施し、1982年に分譲住宅管理組合連絡協議会に止水・防水研究会を設立、以後、日本建築学会、日本建築家協会に維持管理・メンテナンスに関する会を結成し、現在のマンション改修の礎を築かれました。耐震総合安全機構の前身、建築耐震設計者連合の発起人メンバーでもある三木哲氏を偲び、追悼文を掲載します。



わが恩師



宮城秋治

あきらかに徹夜明けと思われる疲れた顔つきながら鋭い眼光をたたえて先生は教室に入ってきた。陽に焼けて頭は角刈り。どうみても現場のおっちゃんだ。大きな耳たぶは人間の深みを感じさせる。焦茶色のタートルネックシャツは脇の下で穴が空いていて白い肌着が覗いているがまったく気にする様子はない。1986年(昭和61年)10月の秋学期。先生は43歳。専門学校で建築のデザインを教えていた。私は大学を出てから建築を学び始めて23歳で先生と初めて出会う。さっそくアルバイトに誘われて新宿一丁目の靖国通りに面するマンション7階の共同設計五月社へ赴いた。ドラフターが6台くらいであとは平行定規だ。スタッフは4年先輩で大船渡出身の千葉日路子さん、あとは1年先輩のアルバイトが5~6人。佳境に入った総合病院の実施設計図面を描きまくっている。先生を筆頭にして手元の灰皿は常に満杯で紫煙

が立ちのぼり千葉さんだけが煙たがっている。私も展開図を任されるがドラフターに耳付きのトレーシングペーパーをマグネットでセットしてシャープペンシルで枠線を引くだけで手が汗ばんでトレーシングペーパーがべこべこになってしまう。夜食を靖国通り向かいの中華料理店味楽でご馳走になるがその日は枠線も完成しないまま終わってしまった。

そのまま共同設計五月社に入れてもらおうと時はバブル景気の真っ只中。毎日終電で帰って朝来ると先生が打ち合わせコーナーのソファから半裸でゴソゴソ起き上がってくる。千葉さんがきゃーと悲鳴する。先生がおうちに帰ってこないのも奥さんの三木利子さんは二号さんがいると思っていたようだがそれは勘違いだ。初めて導入したパソコンをゲーム狙いで一人息子の三木剛さんがたまに遊びにくる。まだ中学2年生で萌やしのように痩せていた。厚生年金会館地下のレストランにランチを一緒に食べにいくと元気に頬張っていた。夏の間は昼休みに富久小学校のプールが開放されていて泳ぎにいく。先生は水泳部出身なので泳ぎがうまい。午後の3時はコーヒブレイクで打ち合わせコーナーに集まってお菓子を頬張りながら建築論を闘わせる。だんだんと先生

の過去も垣間見れてくる。中国膠州湾のドイツ租借地だった青島に生まれてギリギリ残留孤児にならずに日本に帰れた。鎌倉高校から横浜国大で建築を学び東大大学院に進んで全共闘運動に入っていく。1969年(昭和44年)1月に那須ヘスキーに行き骨折してしまい足手まといになると言われて東大安田講堂には立て籠もれなかった。成田闘争ではシンボルとなった風車の設計を任されている。自宅の公団団地のバルコニーが垂れ下がってきて公団に掛け合っただけでその後の公団瑕疵10年間という慣習を勝ち得ている。ここからマンション改修の系譜が始まる。

夏になると社員旅行で海に行く。スキューバダイビングで海に潜る。先生は湘南育ちなので(潜りで)ボンベを背負ってアワビやサザエを採っていたようだ。共同設計五月社の新入社員はこの夏ツアーでスキューバダイビングのライセンスを取得するようになる。国内では八丈島がお気に入りのダイブスポットだった。黒潮に乗ってカンパチやカツオが群れている。からし醤油でネタを漬けた島鮨やめちゃんこ辛い青唐辛子にもやみつきになった。仕事で親しい人たちも連れ立ってセブ島やプーケットなどにも潜り行っていた。潮の流れに身をまかせたドリフトダイビングもよくやってみんなバラバラに浮上しても手慣れたガイドがボートにピックアップしてくれた。

11月になると近所の花園神社へ酉の市に赴く。商売繁盛を祈願して絢爛に彩られた熊手を買って求めるが先生は毎年違うお店をひやかして値切り交渉に重きをおいていた。露店の飲み屋で樽酒を枱の角に塩をもっていた。お酒は特に日本酒がかなり好きだった。おでん、モツの煮込み、蛤や牡蠣も炭火で焼いてもらってご機嫌だった。

2月になると新宿御苑に梅のお花見、3月になると桜のお花見だ。染井吉野から枝垂桜、八重桜と長いあいだ愛でられる。普段は昼休みにお弁当を持っていくが、給料日になるとビールを持ち込んで(今は持ち込み禁止されている)宴会となる。飲み足らず新宿門に近い「あいうえお」で利き酒とタコの卵やマンボウの刺身などの珍味に舌鼓を打つ。若いスタッフやアルバイトはカラオケ

に興じるが先生は嬉しそうに聴いているだけだった。酉の市とお花見は今でも共同設計五月社のスタッフとOBとOGとその仲間たちが集う場になっている。



2019年新宿御苑のお花見

1995年(平成7年)1月17日に阪神淡路大震災が起こると先生は真っ先にJIA日本建築家協会メンテナンス部会で調査団を組織する。応急危険度判定のボランティアや日本マンション学会の相談会で被災したマンション管理組合の相談を弁護士とペアになって受けているところが昼のNHKニュースで全国報道された。同時に集合住宅の被災状況をつぶさに調査して4月15日には「阪神大震災写真集 被災した集合住宅」を刊行する。1996年(平成8年)にはJARAC建築耐震設計者連合がJIA日本建築家協会とJSCA日本建築構造技術者協会とJABMEE建築設備技術者協会の3団体で立ち上がり2003年(平成15年)のJASO耐震総合安全機構の設立に至る。人を中心に据えた耐震という発想が初めて生まれる。

同じ年にはmartamマンションリフォーム技術協会をJIA日本建築家協会メンテナンス部会にあたりリフォーム技術研究会から設立させている。マンション大



阪神大震災復興工事視察

JASO の耐震事例集編集合宿を
化研マテリアル這裏苑 (福島白河) にて

規模修繕工事が社会的にも認知されてゆく。

2011年(平成23年)3月11日に東日本大震災が起こるとJASOに東北津波被害調査特別委員会を立ち上げて現地に入り2012年(平成24年)2月9日に「津波と街と建築 3.11 平成津波被害記録と提言」を刊行する。これまでに第18次の調査団を派遣してまだ活動が継続している。2013年(平成25年)にはJASOからURD建築再生総合設計協同組合を設立させて本格的なマンション耐震補強工事が実現しはじめる。先生には最期まで管理建築士を務めていただいた。2016年(平成28年)4月14日と16日にたてつづけに熊本地震が起こる

とJASOとJIAとURDの合同で熊本地震被害調査団を組織する。「くらしつづける街と建築へ 2016年熊本地震被害記録と提言」を12月20日に刊行する。

先生は多くの震災を糧にしてマンションの安全と安心と快適を探求され続けられた。マンション大規模修繕工事と耐震補強工事の地平を創造されたと言っていい。人を大切にされて優しくあるは厳しく議論を闘わせた。闘争と運動をし続けたその軌跡は永遠に記憶されてゆく。先生は私にとって学校の恩師であり、建築の恩師であり、人生の恩師でもある。



足場の上る三木哲先生 (79 歳)